

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：農業水産業費 項：農業費 目：農業研究費

事業名 農業技術センター試験調査費（国補・県単）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

農業技術センター 係 電話番号：058-239-3131（内101）

E-mail： c24401@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 20,220千円（前年度予算額：24,226千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	24,226	58	0	0	517	0	20,830	0	2,821
要求額	20,220	59	0	0	274	0	17,066	0	2,821
決定額									

2 要求内容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

県内農業は、生産者の高齢化・担い手不足、資材の高騰、国際化による安価な輸入農産物との競合等、大小の様々な問題が発生しており、これらに迅速に対応することが求められる。

これらの課題を解決するため、普及機関等の関係機関との連携を強化し、生産現場からのニーズを的確に捉えた研究開発を実施する。

（2）事業内容

地域の農業が抱える多様な課題に対し、機動的・即応的に対応するため、以下の研究開発課題を実施する。

（県単試験調査費）

- ① 実需者から求められる果実特性を有するイチゴ品種の育成
- ② 気候変動に適応する小麦高品質安定生産技術の開発
- ③ 新規需要の創出に向けたオリジナル花きの育成
- ④ 環境モニタリングによる施設花きの栽培管理技術の開発
- ⑤ 県育成イチゴ品種の障害果発生を抑制する栽培技術の確立

- ⑥ 実需者から求められる果実特性を有するイチゴ品種の育成
 - ⑦ 固形培地耕栽培に対応した病虫害防除対策技術の確立
 - ⑧ 高品質水稻の安定生産に向けた施肥技術の確立
- 他 計 21 課題

(国補試験研究費)

- ① 農地土壌温室効果ガス排出量算定基礎調査事業

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	996	試験・研究に関わる現地調査、研究会、学会等への移動経費
需用費	15,820	試験・研究に関わる消耗品費、燃料費、光熱水費、機器修繕費等
役務費	610	試験に関わる通信運搬費、手数料
その他	2,794	試験に関わる備品購入費、学会参加負担金等
合計	20,220	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「ぎふ農業・農村基本計画」(R3～R7)では4つの基本方針「ぎふ農業・農村を支える人材育成」、「安心して身近な「ぎふの食」づくり」、「ぎふ農畜水産物のブランド展開」、「地域資源を活かした農村づくり」を定めている。これに基づき研究開発・地域支援を実施する。

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 県内農業の地域ニーズや現場の抱える課題を積極的にとりあげ、関係機関と連携して効率的な研究を進め、県内農業振興に貢献する技術開発を進める。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R4)	達成率
						%
技術移転の推進	—	19	25	22	22	86%
						%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	研究課題の設定では、生産現場からの技術的なニーズを的確に収集し、9件を県単研究課題として実施すると共に、外部資金を含め19課題を実施した。これにより、「短期夜間変温管理によるミニバラの省エネ生産技術」、「オーダーメイド型水稻品種「岐系207号」の特性」、「ハツシモ岐阜SL」における地力窒素を加味した適正窒素施肥」など多くの技術を開発し成果が得られている。
令和3年度	<p style="color: red;">令和5年度当初予算にて追加</p> <hr/> 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <hr/> 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 2	<p>コロナ禍における農産物価格の低迷、国際化による輸入農産物の増加、高齢化に伴う担い手の減少、異常気象の頻発等、農業は重要な諸課題に直面している。研究による新技術の開発と技術的な支援を迅速に行うことは、本県農業の発展と振興に大きく貢献しており、事業の必要性は極めて高い。</p>
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	<p>生産現場からの技術的なニーズを的確に収集し、主要品目の栽培技術開発、新品種の育成、さらには病虫害対策や施肥技術に係る事項を課題化し、本県の農業生産振興に寄与した。</p>
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 1	<p>課題については、毎年、実施予定の試験課題の設計、予算等の内容を十分に精査し、経費の削減に努めている。 さらに、関係各課により、予算額や各課題の事業効果等を考慮した精査が行われ、効率化が図られている。</p>

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>地域では大小の様々な課題が発生しており、これらに迅速に対応するため、普及機関等の関係機関との連携強化、情報の共有等をさらに進めていく。 また、得られた研究成果についても、関係機関と連携し、生産現場への迅速な普及に努めていく。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>今後も現場の諸課題を研究開発テーマとして取り入れ、現場ニーズに早急に対応できる技術開発に努めると共に、全国的な重要課題に対しても持てる技術を提供することで、岐阜県農業の発展に貢献していく。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	

